

文献紹介

鈴木芳行 著：
『近代東京の水車——「水車台帳」集成』
岩田書院 1994年9月
A4判 538ページ 15,244円

従来、水車に関する研究は、歴史学・民俗学・産業考古学などの分野で多い。しかし、明治期における日本の産業革命前後において、水車が在来工業の振興に果たした役割を詳細に明らかにした論考は少ない。

地域史の視点からは、近世末期における水車動力在来工業の関係を扱った、伊藤好一氏の『武蔵野と水車屋—江戸製粉事情—』(1984年、クオリ)などが挙げられる。また、歴史地理学の分野では、末尾至行氏が水力利用に関する一連の論考のなかで、水車動力の重要性をいち早く見抜き、ムラの水車、マチの水車など立地条件と類型化をされたものぐらいであろうか。

この理由には、利用可能な資料が、①『共武政表』・『徴発物件一覧表』のように、水車の所在した町村しか判明せず、詳細な所在地・利用形態が判明し得

ないこと、②水車の許認可に関する文書が、膨大な行政文書の中に埋もれ、発掘しきれないでいること、などがあげられる。

しかし、近年にいたり、本書の編著者である鈴木芳行氏によって、ミクروسケール、あるいはメディアムスケールでの水車利用の様態が明らかにされつつある。

鈴木氏は、1990年に「在来産業である膝折村水車伸銅業の技術史的考察—元伸銅工への聞き取りを中心—」(『都市周辺の地方史』雄山閣出版、所収)によって、在来産業である水車伸銅業の近代化を明らかにしている。まさに本書は、東京における電氣動力導入以前の、水車の稼働状況を克明にあらわす格好の資料であるといえる。

東京都公文書館に所蔵される総数12,000点を超える明治・大正期の水車行政文書を独自の様式(図1)にまとめなおし、名寄せ形式の水車台帳としての体裁を整え、所有者・所有者所在地・水車所在地・地目・面積・規模・業種・引用・沿革の各項目を記載している。

図1. 水車カード

カードNo		頭文字	分類番号	年	代	史料番号	絵図面
		明治	大正	()年	()月	()日	Na
新設 譲渡 売買 地		氏名	郡	町	村	番地	面積
許可年月日	明治 大正 ()年 ()月 ()日	創業年月日	()年	月	日		
起工届 有無	免許期限: ()年()月~()年()月()年間	水車所在地	郡	町	村	番地	
竣工届 有無	事業科目: 製粉 精米 紡績 糸織	水車	水車小車	件()本	()台		
延期届 有無	水路	川	用水	()間×()間	()台	二尺()台	尺
工事日数 ()日間	本川	川	標高	尺	一斗()台	三尺()台	輪 ()丈()尺
設置理由等		内	原	二斗()台	四尺()台	()丈()尺	径
継続年月日	明治 大正 ()年 ()月 ()日	備考	日	()台	()台	()台	()台
継続年月日	明治 大正 ()年 ()月 ()日	口径	縦	()丈()尺	水深	()丈()尺	()尺
継続(廃業)年月日	明治 大正 ()年 ()月 ()日	横	横	()丈()尺	長さ	()丈()尺	()尺
裏面参照(設計仕様書、その他)備考		科目	分車・増設等	許可年月日	明治	()年 ()月 ()日	
		車	前	後			
		件	本	本			
		臼	台	台			
		磨	台	台			
		輪	台	台			
		等					

図1 水車カード

これに加え、1195件の水車に関する台帳のみでなく、欄登載資料として「水車新設願」・「(水車業規則違反ニ付) 始末書」・「水車営業定約書」などの史料や、「撚糸水車現況図」・「紡績用水車設計図」・「水車移転図」などの図版史料が計171点併せて載せられていて、水車に関する諸々の環境を復原するのに好都合である。本書には、14ページにわたる解説が付けられ、主な業種の地域分布に関する表が提示されている。

これをみると、伊藤が指摘していたように、近世後期における北多摩地域の製粉業の発達、明治・大正期においても確認されると同時に、西多摩地域においては製材業への利用が確認でき、林業の盛んな様子がうかがえる。また、南多摩地域において紡績業・撚糸業・生糸揚返業に水車動力が利用されている状況を見ると、後背に秩父などの生糸生産地を

抱え、正面に横浜という大消費地(出港地)を抱えていた八王子周辺の織物業の隆盛の様子を伺い得る。さらに、水車台数の経年変化に関する表も載せられてあり、近代日本産業革命期の底辺を支えた在来工業の発展の様子をうかがい得る格好の史料といえる。

しかし、本書には、これらのデータが全く図化されていない。台帳をみただけでは、水車の分布や水車動力を用いた在来工業の分布がわかりにくい点だが、今後の資料加工の上で課題となつてこよう。

最後に、史料に対する史料批判が、いっさい論じられていないことに、若干の不安を覚える。

上記の問題点を差し引いても、東京における水車の稼働状況を示す詳細な資料であることには変わりあるまい。本書を利用して、今後益々、地域に根ざした在来工業と工業動力に関する研究が進展することであろう。(天野宏司)